

## 21 世紀のカレッジ・ジャパニース 第2課 音声ファイル スクリプト

### 21 世紀のカレッジ・ジャパニース 第2課

今日の授業は時間についての話です。ポイントは、ここに書いたように、「主観的」「客観的」「不可逆性」ということです。それから、授業の最後には、コメントシートに今日の話の内容を簡単にまとめてもらいますから、きちんとノートを取って聞いてください。

みなさんは、えー、いつも、「時がたつ」ということについて、どんなイメージをもっていますか？ どうですか？ 私たちは、ふだんの経験では、誰かを待っているときの時間は、長く感じられますよね。たとえば友だちが約束になかなか来ないなとか。でも、逆に、何かに夢中になっているときの時間というのは、とても短く感じられますよね。時間の流れ方ってというのは、状況によって、違いがあるように見えるというわけです。えー、だけど、小さい子供じゃあるまいし、大人は、そんなような時間の流れ方の違いってというのはいわば主観的な感じ方の違いであって、本当の客観的な時間は、主観のそのときどきの状況とは関係なくたっている、刻々と均一に過ぎているし、その均一さは、時代や場所によって違うわけではない、絶対的なものだと考えています。実際、たとえば、私が何かに夢中になって、あーもうこんな時間だとハッとするような、時間を短く感じているその間に、「標準時」に合わせてある時計は、刻々と時を刻み、それを周りの友だちや家族は、退屈しながら見ているってということもあるでしょう。それに、どんな自然科学者や歴史学者も、仮に時代の違いによって回転速度が変化するか、ということについて語ることがあるにしてもですよ、時間の経過それ自体が時代によってその速さを変えるなんていうことは、ないですよ。まあ、私たちの常識的な捉え方からすれば、時間はやっぱり、天上か地上かの違いには無関係に、えー、永遠の昔から現在に至るまで全く同一の速さで流れて来て、永遠の未来に向かって流れつづけていく、全宇宙的な普遍の流れなんだと思うんです。

しかも、そうした時間の流れってというのは、不可逆なものだということも、私たちは常識としてよく知っていますよね。つまり、時間の流れには、現在の瞬間が過去になって消えてしまい、ついさっきまで未来であった瞬間が現在になるという、まあ一定の方向があって、その方向を逆転して、過去を現在にたぐり寄せるようなこと、そんなことは絶対にできない、と私たちは考えています。まあ、その意味では、ニュートンが言ったように、常識的時間の各部分の順序も不変でなければならないということです。そして、実を言えば、私たちは、この不可逆性に当面して、つまり向き合っ初めて、時間の存在というものを痛切に強く意識し、そして時には、時間の問題を人間論の最も大事なこととして考えることにもなるんですね。というのも、一切が同時的に存在する無限な空間では、その部分が相互に交換することが可能ですが、それと比べると、時間の存在理由は、たぶん、えーっ、その不可逆性という点にこそあることになるのでしょうし、一方、人生の重大事というもの多くは、いわゆる取り返しのつかないことだらけに成り立つので、だから、それらは同時に時間的な問題でもあるからだということになるんです。